

北海道病院事業改革推進プランの策定について

1. プランの体系

1

現行プラン	新プラン	備考
I 基本的事項	I 基本的事項	
II 道立病院の現状と課題	II 道立病院の概要	
	III これまでの取組	現プランのふり返し
	IV 道立病院を取り巻く環境	社会経済情勢の変化等
III 道立病院が果たすべき役割・機能	V 基本的な方向性	道立病院全体の方向性
IV 医療従事者等の確保対策	1 基本方針 2 基本的な考え方	
V 機能分化・連携強化	VI 取組事項	各病院における取組事項には、果たすべき役割・機能、課題、目指す姿、具体的な取組内容を記載
VI 新興感染症の感染拡大時に備えた平時からの取組	1 共通する取組事項 2 各病院における取組事項	
VII 経営の効率化	VII 新興感染症の感染拡大時に備えた平時からの取組	
VIII 一般会計負担金の算定の考え方	VIII 収支計画及び数値目標 (一般会計負担金の算定の考え方含む)	R 8 当初予算編成にあわせて検討
IX 収支計画及び数値目標		
X プランの点検・評価、公表等	(I 基本的事項に記載)	

■ 策定の趣旨

- 人口減少の急速な進行やコロナを契機とした受診行動の変化による患者数の減少、近年の賃金上昇や物価高騰による人件費、経費の増加に加え、地域においては医療従事者の不足が深刻化するなど、道立病院の経営を取り巻く環境は厳しさを増しており、これまで以上に効率的な病院経営が必要。
- 今後、高齢化の進行による疾病構造の変化や医療分野でのデジタル化の進展に対応し、道立病院の機能を維持していくためには、限られた医療資源の効果的な活用はもとより、これまでの取組を深化・充実させ、中長期的な目標を立て計画的に進めることが必要。
- 道立病院が直面する課題や環境の変化に迅速かつ的確に対応し、将来にわたり道立病院が果たすべき役割を担っていくため、賃金上昇や物価高騰等を踏まえた診療報酬の改定や財源措置について国への要望を行いつつ、現行プランの計画期間を待たずに取組内容の見直しを行い、令和8年度を始期とする新たな「北海道病院事業改革推進プラン」を策定。

■ 位置付け

- 「北海道総合計画」が示す政策展開の基本方向に沿って策定、推進する特定分野別計画
- 総務省が策定したガイドラインに基づく「公立病院経営強化プラン」

■ 期 間

- 令和8年度から令和12年度までの5年間

■ 推進管理

- 取組の進捗や指標の達成状況について、北海道病院事業推進委員会の意見を伺いながら、毎年、点検・評価を実施し、公表。
- 新たな地域医療構想をはじめ道の医療施策との整合性や、社会経済情勢の変化などに応じて、適宜、必要な見直しを実施。

■ 基本方針

地域医療構想等との整合性を図りながら、持続可能な病院経営を確立し、地域で必要とされる質の高い医療を安定的に提供する。

■ 基本的な考え方

項 目	方向性
病院機能の維持・充実	<ul style="list-style-type: none">○ 地域の医療機関や介護施設等との役割の明確化及び連携の強化○ 在宅医療・訪問看護の実施など地域包括ケアシステムの構築支援○ オンライン診療や医療機関間での診療情報の共有などデジタル化の推進
医療従事者等の確保・育成	<ul style="list-style-type: none">○ 医育大学や関係機関等との連携強化○ 専門研修プログラムの充実や各種専門資格・技能の取得支援、研修の充実○ 他の医療機関等との連携による人材交流の推進○ 病院経営に精通した事務職員の確保・育成
働き方改革への対応と勤務環境の改善	<ul style="list-style-type: none">○ タスク・シフト／シェアの推進等による医師・看護師等の業務負担の軽減○ 働きやすく魅力ある職場づくり
経営基盤の強化	<ul style="list-style-type: none">○ 病院の果たすべき役割や医療需要の動向、地域の実情等を踏まえた病床機能・規模の最適化○ 医療需要等に応じた職員配置の適正化○ 収益の確保・費用の削減による一般会計負担金の計画的な縮減○ 必要性や採算性を踏まえた適正な設備投資・施設管理○ 患者満足度調査の結果等を踏まえた患者サービスの向上○ 病院の規模や地域の実情等を踏まえ、安定的な医療提供に最適な経営形態の検討

4. 共通する取組事項（P15～16）

4

項 目	具体的な取組内容	プラン検討部会でのご意見
医育大学や関係機関等との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> 道内3医育大学からの派遣医師の確保に向けた取組強化 道外からの医師招聘の積極的な取組 養成校へのPR活動や見学会の実施、各種団体との連携による医療従事者確保 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 東京事務所と連携した医療従事者確保対策の実施。 ✓ 道内自治体病院でも関西方面で医師確保に取り組んでいるところもある。経験・ノウハウの情報収集してはどうか。
専門研修プログラムの充実や各種専門資格・技能の取得支援、研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> 専攻医のニーズを踏まえた専門研修プログラムに係る連携施設の増加 学会への参加や民間病院への派遣研修の実施など、資格の取得をはじめ専門知識の習得に向けた支援の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 専門研修プログラムの構成について議論しながら、他病院と棲み分けする工夫があれば、受入に貢献する可能性。 ✓ 修学資金、奨学制度の検討。
他の医療機関等との連携による人材交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> 医療従事者の育成に向けた、公的医療機関との相互派遣や交流の推進 地域の人材不足に対応するため、他の医療機関との人材交流 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 連携推進法人内の病院医師に、当直に来てもらう等の検討。【江差】 ✓ 網走厚生病院との相互医師派遣は、充実を図り継続すべき。【向陽ヶ丘】
病院経営に精通した事務職員の確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> 各病院の状況に応じた診療情報管理士の配置・専門人材育成 	
タスク・シフト／シェアの推進等による医師・看護師等の業務負担の軽減	<ul style="list-style-type: none"> 医師事務作業補助者や看護補助者、特定行為を行うことができる看護師等の配置の検討 業務の効率化と生産性の向上を図るため、業務の集約化やICTの利活用を促進 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 救急の集約化、遠隔診療の充実による負担緩和策としてNPの活用を検討すべき。
働きやすく魅力ある職場づくり	<ul style="list-style-type: none"> 夜間の看護体制を確保するため、看護師の処遇改善 勤怠管理システム等の運用による労働時間の適正管理、時間外労働時間の短縮 職員が相談しやすい環境を整備するとともに、研修会の実施等による意識啓発等を行い、ハラスメントを起こさない職場づくり 	

4. 共通する取組事項（P15～16）

5

項 目	具体的な取組内容	プラン検討部会でのご意見
病院の果たすべき役割や医療需要の動向、地域の実情等を踏まえた病床機能・規模の最適化	<ul style="list-style-type: none"> 地域医療構想や地元自治体の意見等を踏まえ、医療需要に即した診療体制（病床機能や病床数、外来）への見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 人口減少など医療需要を勘案し、どこまで医療機能を持つのか検討が必要。
医療需要等に応じた職員配置の適正化	<ul style="list-style-type: none"> 他の医療機関との均衡にも配慮した、患者数や業務量に応じた適正な定数管理 医療需要や費用対効果を十分検証の上、新規・上位施設基準の取得に必要な職員を配置 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 児童・思春期精神科医療の専門医は、定数内で補充すべき。【緑ヶ丘】 ✓ 新生児集中治療管理料の基準を満たすことが最大の課題。【コドモックル】
収益の確保・費用の削減による一般会計負担金の計画的な縮減	<ul style="list-style-type: none"> 医療需要や費用対効果を十分検証の上、上位施設基準や加算を取得 診療報酬改定を踏まえ、適宜、料金の見直しを行うとともに、医療需要の変化や他医療機関の状況を勘案しながら新たな料金の設定を検討 業務委託の必要性についてゼロベースで検討・仕様の統一化や執行方法の見直しによる費用の縮減 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 新生児集中治療管理料の区分を1に戻すために、基準を満たすスタッフを集めることが最大の課題。【コドモックル】 ✓ 職員配置の状況も踏まえながら、委託の必要性や内製化の可能性について検討すべき。
必要性や採算性を踏まえた適正な設備投資・施設管理	<ul style="list-style-type: none"> 設備導入・更新の必要性や採算性の十分な検討 医療機器の計画的更新等による費用負担の平準化 空きスペースの有効活用に向けた地元市町村との検討 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 休床となっている場所の有効活用の検討が必要
患者満足度調査の結果等を踏まえた患者サービスの向上	<ul style="list-style-type: none"> 各病院において患者満足度調査を定期的に実施し、その結果を踏まえた院内設備の整備や手続きの簡素化などの患者サービスの向上 	

【経営形態の見直し】

- 人口減少の更なる進行等により、病院経営を取り巻く環境は厳しさを増していくものと考えられるが、引き続き、現行の経営形態を維持し、本プランに掲げる取組を着実に進めていくことで、地域に必要な医療の提供と経営改善の両立を目指す。
- 北見病院は指定管理者制度を導入しており、令和10(2028)年3月末で指定期間が満了することから、令和10年4月以降の経営形態のあり方について、北見病院が果たすべき役割やこれまでの実績・効果、今後の医療需要見込みなど様々な観点から検討を進める。

■ 江差病院（P17～19）

【果たすべき役割・機能】

- 南檜山圏域における唯一の地域センター病院として、急性期・回復期入院医療、精神科医療及び人工透析医療を提供します。
- 第二種感染症指定医療機関として、感染症患者の受入れや発熱外来等を担います。
- 災害拠点病院として、災害時における医療の提供やDMAT(災害派遣医療チーム)の派遣体制を整備します。
- 救急告示医療機関として、圏域内の病院群輪番制への参画、夜間救急の集約化により、救急搬送患者を受け入れます。
- ヘキ地医療拠点病院として、ヘキ地診療所からの患者を受け入れます。
- 初期臨床研修医や医学生など医療人材を育成するため、札幌医科大学地域医療研究教育センターに医学・研究フィールドを提供します。

【課 題】

- 人口減少の進行やコロナ禍後の受診行動の変化などにより、患者数の減少が続いています。
- 地域から支援・協力をいただきながら医療従事者の確保に取り組んでいるものの、常勤医師・看護師等の欠員が常態化しています。

【目指す姿】

住民の皆様が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、地域に必要な質の高い医療を提供する機能を維持・充実させながら、地域包括ケアシステムの推進に向けた支援や臨床研修医をはじめとする医療人材の育成に取り組みます。

5. 各病院における取組事項

7

項 目	具体的な取組内容	プラン検討部会でのご意見
地域の医療機関や介護施設等との役割の明確化及び連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> 地域の医療機関や福祉施設等と連携した入退院支援 圏域内入院機能の江差病院への集約に向けた検討加速 地域医療連携推進法人南檜山メディカルネットワークに参加している法人間での医療機器の共同利用や医療従事者の相互派遣の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 周辺の公立病院から江差病院への入院の集約を進めるべき。 ✓ 連携推進法人内の病院医師に、当直に来てもらうなどの検討。
在宅医療・訪問看護の実施など地域包括ケアシステムの構築支援	<ul style="list-style-type: none"> 医療需要の変化を踏まえながら、必要な地域包括ケア病床数を確保 地域における在宅医療の推進に向けた取組への支援 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 在宅医療を担っていく必要がある。
オンライン診療や医療機関間での診療情報の共有などデジタル化の推進	<ul style="list-style-type: none"> 道南MedIkaと連携し、南渡島圏域と南檜山圏域が相互に共有できる診療情報の拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 南渡島からの患者受入のため、道南MedIkaの活用を促進すべき。
病院の果たすべき役割や医療需要の動向、地域の実情等を踏まえた病床機能・規模の最適化	<ul style="list-style-type: none"> 医療ニーズを踏まえた人工透析治療体制や必要な地域包括ケア病床数の確保 地域医療構想や地元自治体の意見、圏域内の入院機能の集約に向けた検討を踏まえ、医療需要に即した診療体制(病床機能や病床数、外来)への見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 人口減少など医療需要を勘案し、どこまで医療機能を持つのか検討が必要。 ✓ 出張診療外来、透析は継続の方向で検討すべき。 ✓ 当分は1病棟に集約してもあまり支障がないのでは。経過を見て2病棟に戻すなど弾力的な運用の検討が必要。
医療需要等に応じた職員配置の適正化	<ul style="list-style-type: none"> 患者数に応じた診療体制の構築に向けた、必要となる非常勤医師の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 出張診療外来は継続の方向で検討すべき。[再掲]
収益の確保・費用の削減による一般会計負担金の計画的な縮減	<ul style="list-style-type: none"> 患者数の確保に向けた、南渡島圏域の医療機関との紹介率・逆紹介率の向上 救急の集約化や救急実績をホームページやSNSを通じた発信による地域救急貢献率の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 南渡島からの患者受入のため、道南MedIkaの活用を促進すべき。[再掲]

■ 羽幌病院（P20～22）

【果たすべき役割・機能】

- 留萌圏域における地域センター病院として、急性期・回復期入院医療及び人工透析医療等を提供します。
- ヘキ地医療拠点病院として、ヘキ地診療所からの患者の受入れ、準無医地区への巡回診療、離島への診療支援を行います。
- 救急告示医療機関として、救急搬送患者を受け入れます。
- 総合診療専門研修プログラムの基幹施設として、専攻医を積極的に受け入れ、優れた総合診療専門医の育成に取り組みます。

【課 題】

- 人口減少の進行やコロナ禍後の受診行動の変化などにより、患者数の減少が続いています。
- 総合診療専門研修プログラムの専攻医の受け入れによる医師の確保等に取り組んでいるものの、生産年齢人口の減少などにより、常勤医師・看護師の欠員が生じています。

【目指す姿】

住民の皆様が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、地域に必要な質の高い医療を提供する機能を維持・充実させながら、地域包括ケアシステムの推進や離島医療の確保に向けた遠隔医療等による支援、総合診療専門医をはじめとする医療人材の育成に取り組みます。

5. 各病院における取組事項

項 目	具体的な取組内容	プラン検討部会でのご意見
地域の医療機関や介護施設等との役割の明確化及び連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> 留萌市立病院との医師の相互派遣の継続、紹介・逆紹介の推進 留萌市立病院との役割分担について検討 準無医地区での巡回診療や離島診療所の診療支援体制を維持 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 離島では将来的に医師確保が困難となる可能性が高い。 ✓ 遠隔医療の活用に向けてDX化を計画的に進めていく必要がある。
在宅医療・訪問看護の実施など地域包括ケアシステムの構築支援	<ul style="list-style-type: none"> 回復期機能の充実に向けた、必要な地域包括ケア病床数の確保やリハビリ機能の強化 オンライン診療による在宅医療の提供に向けた、地元自治体や訪問看護事業所等との協議 	
オンライン診療や医療機関間での診療情報の共有などデジタル化の推進	<ul style="list-style-type: none"> 離島医療への支援や在宅医療の提供に必要なデジタル化を推進 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 遠隔診療の充実に向け、NPの活用を検討すべき。 ✓ 遠隔医療の活用に向けてDX化を計画的に進めていく必要がある。[再掲]
病院の果たすべき役割や医療需要の動向、地域の実情等を踏まえた病床機能・規模の最適化	<ul style="list-style-type: none"> 医療ニーズを踏まえた人工透析治療体制や必要な地域包括ケア病床数を確保 地域医療構想や地元自治体の意見等を踏まえ、医療需要に即した診療体制(病床機能や病床数、外来)への見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 人口減少など医療需要を勘案し、どこまで医療機能を持つのか検討が必要。
医療需要等に応じた職員配置の適正化	<ul style="list-style-type: none"> 患者数に応じた診療体制の構築に向けた、必要となる非常勤医師の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 出張診療外来は継続の方向で検討すべき。
収益の確保・費用の削減による一般会計負担金の計画的な縮減	<ul style="list-style-type: none"> 患者数の確保に向けた、紹介率・逆紹介率の向上 官公署や事業所等の健康診断の受託増 	

■ 緑ヶ丘病院（P23～25）

【果たすべき役割・機能】

- 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律に基づく措置入院や医療保護入院、応急入院に対応します。
- 精神科救急医療システム指定病院として、病院群輪番制に参画し、24時間体制で救急搬送患者を受け入れます。
- 児童・思春期精神科医療を提供します。
- アルコール健康障害対象の依存症専門医療機関として、依存症患者等への専門的医療を提供します。
- 北海道との北海道災害派遣精神医療チーム(DPAT)の派遣に関する協定に基づき、被災地等での精神医療の提供及び精神保健活動の支援を行います。

【課 題】

- 人口減少の進行やコロナ禍後の受診行動の変化、入院患者の地域移行などにより、患者数の減少が続いています。
- 医師確保に向けて、道内医育大学との連携体制の構築や道外も含めた他の医療機関への働きかけ等に取り組んでいるものの、常勤医師等に欠員が生じています。

【目指す姿】

精神科救急への対応や児童・思春期精神科医療などの専門的医療を提供する機能を維持・充実させながら、デイケアや訪問看護などを通じた精神疾患患者の地域生活への移行に向けた支援に取り組めます。

項 目	具体的な取組内容	プラン検討部会でのご意見
地域の医療機関や介護施設等との役割の明確化及び連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> 地域の医療機関相互の連携の確保、精神科救急医療体制の維持 道東地域における児童・思春期精神科医療の中核的な病院としての機能の維持 地域医療構想や周辺医療機関の医療提供機能の状況を踏まえ、役割分担や機能の再編に向けた協議 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 東京事務所と連携した医療従事者確保対策の実施。
在宅医療・訪問看護の実施など地域包括ケアシステムの構築支援	<ul style="list-style-type: none"> 地域生活への移行を支援するため、訪問看護やデイケアを充実 	
オンライン診療や医療機関間での診療情報の共有などデジタル化の推進	<ul style="list-style-type: none"> 地域の自治体病院等での診療に係る医師の負担軽減と業務の効率化を図るため、オンライン診療の活用について検討 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 現在、訪問診療している地域でのオンライン診療の実施に向けICTの活用を検討すべき。
病院の果たすべき役割や医療需要の動向、地域の実情等を踏まえた病床機能・規模の最適化	<ul style="list-style-type: none"> 精神科救急急性期医療病棟において、チーム医療による質の高い医療を提供 人口減少等に伴う入院患者数の減少や、発達障がいの増加など疾病構造の変化に対応できるよう診療体制の充実 地域医療構想や地元自治体の意見等を踏まえ、医療需要に即した診療体制(病床機能や病床数、外来)への見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 児童・思春期精神科医療は非常に重要。採算を度外視してでも残すべき。 ✓ 人件費が医業収支比率を大きく下げている要因なので見直すべき。 ✓ 適正な病床数について、地域医療構想に先駆けて検討すべき。
収益の確保・費用の削減による一般会計負担金の計画的な縮減	<ul style="list-style-type: none"> 早期退院に向けた取組により、精神科救急急性期医療入院料算定料などの向上 患者の待機期間の短縮に向けて、公認心理師の確保や検査体制の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 外来の待機期間の短縮に向けて、公認心理師の配置による効果を検証しながら、継続的に取り組むべき。

■ 向陽ヶ丘病院（P26～28）

〔果たすべき役割・機能〕

- 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律に基づく措置入院や医療保護入院、応急入院に対応します。
- 精神科救急医療システム指定病院として、病院群輪番制に参画し、24時間体制で救急搬送患者を受け入れます。
- 認知症疾患医療センターとして、鑑別診断など専門的な医療を提供するほか、地域における認知症疾患の保健医療水準の向上に取り組みます。
- 他の医療機関と連携しながら、児童・思春期精神科医療を提供します。

〔課 題〕

- 人口減少の進行やコロナ禍後の受診行動の変化、入院患者の地域移行などにより、患者数の減少が続いています。
- 関係機関との連携により医療従事者の確保に取り組んでいるものの、常勤医師・看護師等に欠員が生じています。

〔目指す姿〕

精神科救急への対応や認知症疾患等への専門的医療を提供する機能を維持・充実させながら、デイケアや訪問看護などを通じた精神疾患患者の地域生活への移行に向けた支援に取り組めます。

5. 各病院における取組事項

13

項 目	具体的な取組内容	プラン検討部会でのご意見
地域の医療機関や介護施設等との役割の明確化及び連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> 地域の医療機関相互の連携の確保、精神科救急医療体制の維持 認知症疾患に係る専門的医療や児童・思春期精神科医療の提供機能の維持 精神疾患と身体疾患との合併症患者に対応するため網走厚生病院との医師の相互派遣を継続 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 網走厚生病院との相互の医師派遣は、充実を図った上で継続すべき。 ✓ 東京事務所と連携した医療従事者確保対策の実施。
在宅医療・訪問看護の実施など地域包括ケアシステムの構築支援	<ul style="list-style-type: none"> 地域生活への移行を支援するため、訪問看護やデイケアを充実 地域包括ケアの現状に係る情報・課題の共有を図るため、地域の保健所をはじめ関係機関との交流会等を開催 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 1病棟化し、看護師を訪問看護に振り向ける検討を。
オンライン診療や医療機関間での診療情報の共有などデジタル化の推進	<ul style="list-style-type: none"> 網走市が実施する移動型医療サービス推進事業(医療MaaS)に参加し、通院困難な方などへのオンライン診療の実施 	
病院の果たすべき役割や医療需要の動向、地域の実情等を踏まえた病床機能・規模の最適化	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少等に伴う入院患者数の減少や、認知症の増加など疾病構造の変化に対応できるよう診療体制の充実 地域医療構想や地元自治体の意見等を踏まえ、医療需要に即した診療体制(病床機能や病床数、外来)への見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 児童・思春期精神科医療の専門医については、人を増やさずに定数内で補充すべき。 ✓ 1病棟化し、看護師を訪問看護に振り向ける検討を。[再掲]
収益の確保・費用の削減による一般会計負担金の計画的な縮減	<ul style="list-style-type: none"> 新規患者の待機期間の短縮に向けて、効率的な外来診療体制の整備 	

■ 子ども総合医療・療育センター（P29～31）

【果たすべき役割・機能】

- 小児に対する高度専門医療の提供と、医療部門と療育部門が連携した複合的・専門的なサービスを提供します。
- 特定機能周産期母子医療センターとして、超低出生体重児等ハイリスクの胎児や新生児に対し、高い水準の周産期医療を提供します。
- 循環器病センターとして、先天性心疾患に対応したカテーテルインターベンションなど高度先進医療を提供します。
- 総合発達支援センターとして、科学的な根拠に基づく医学的リハビリテーションの提供や、新生児期からの障がいの軽減に向けた医療と療育が連携したリハビリテーションを提供します。
- 小児科専門研修プログラムの基幹施設として、専攻医を積極的に受け入れ、優れた小児科専門医の育成に取り組みます。
- 北海道との北海道災害派遣精神医療チーム(DPAT)の派遣に関する協定に基づき、被災地等での精神医療の提供及び精神保健活動の支援を行います。

【課 題】

- 人口減少・少子化の進行や在院日数の短縮などにより、入院患者数の減少が続いています。
- 収益が伸び悩む中、給与費、委託経費をはじめとする経費の増加により、収支差が年々拡大しています。
- 常勤医師・看護師等の安定的な確保が課題となっています。

【目指す姿】

道内の小児医療の最後の砦として、ハイリスクな患児に対する専門的かつ高水準な周産期医療や循環器疾患に対する高度で先進的な医療を提供する機能、医療と療育が連携したリハビリテーション機能を維持・充実させながら、小児科医をはじめとする医療人材の育成に取り組みます。

5. 各病院における取組事項

15

項 目	具体的な取組内容	プラン検討部会でのご意見
地域の医療機関や介護施設等との役割の明確化及び連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> 小児期医療から成人期医療への円滑な移行に向けた受入医療機関との連携の強化 	
在宅医療・訪問看護の実施など地域包括ケアシステムの構築支援	<ul style="list-style-type: none"> 入院患者の在宅医療への移行や、在宅療養患者の適切なフォローアップのため、福祉関係機関との連携・調整を強化 	
病院の果たすべき役割や医療需要の動向、地域の実情等を踏まえた病床機能・規模の最適化	<ul style="list-style-type: none"> NICUやICU、HCUなど患児の状態に応じた医療提供体制の整備 医療型短期入所サービスの拡充に向けた、多職種調整による受入体制の確保や利用条件の明確化等の検討 地域医療構想等を踏まえながら、医療需要に即した診療体制(病床機能や病床数、外来)への見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 新生児集中治療管理料の区分を1に戻すために、基準を満たすスタッフを集めることが最大の課題。 ✓ 病棟再編は、適正な病床数・人員を確保した上で行うこと。 ✓ 一定の質を担保することを前提に、病棟の統合を検討すべき。
収益の確保・費用の削減による一般会計負担金の計画的な縮減	<ul style="list-style-type: none"> 医療需要や費用対効果を十分検証の上、上位施設基準であるスーパーNICUの取得を検討 DPC入院期間Ⅱ以内の退院率の向上を図るため、クリニカルパスの積極的な活用など、標準かつ効率的な医療提供 患児の状態にあわせたきめ細やかなベッドコントロールにより、ICU等の効果的な運用 道内医療機関との情報交換や個別訪問等による患者数の確保 療育部門について、医療機関や関係機関への訪問による利用者数の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ スーパーNICUは、患者数や必要な人件費など採算性を試算する必要。 ✓ 対象人口が減少する中で連携に努めても患者増には限界。医業収支比率を65～70%とする目標を立て、費用縮減に一層努める必要がある。 ✓ 人件費に焦点を当てなければ、効果的な削減はできない。他都府県のこども病院を参考としながら、職員給与費対医業収益比率の改善を図るべき。 ✓ 職員配置の状況も踏まえながら、委託の必要性や内製化の可能性について検討すべき。

■ 北見病院（P32～33）

【果たすべき役割・機能】

- オホーツク第三次医療圏において、循環器・呼吸器疾患に係る高度・専門医療を提供します。
- 指定管理者である北見赤十字病院との一体的な病院運営により、新たな手術の実施など、より高水準で先進的な医療を提供します。

【課 題】

- 人口減少の進行に伴う患者数の減少や医療ニーズの変化への対応が必要となっています。
- 関係機関との連携により医療従事者の確保に取り組んでいるものの、常勤医師・看護師等の確保が困難となっています。

【目指す姿】

地域完結型の医療提供体制の構築を目指し、指定管理者である北見赤十字病院や地域の医療機関と連携・協力しながら、心臓疾患や大血管疾患、呼吸器疾患に係る高度で専門的な医療提供機能の充実に取り組みます。

項 目	具体的な取組内容	プラン検討部会でのご意見
地域の医療機関や介護施設等との役割の明確化及び連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> 患者ニーズに応じ、早期の退院・社会復帰が可能となるよう、地域の医療機関等と連携した入退院支援 	
病院の果たすべき役割や医療需要の動向、地域の実情等を踏まえた病床機能・規模の最適化	<ul style="list-style-type: none"> ICUやHCUなど患者の状態に応じた医療提供体制の整備 地域医療構想等を踏まえながら、医療需要に即した診療体制(病床機能や病床数、外来)への見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ TAVIがないことで、どのくらいが圏域外に流出しているのか。 ✓ TAVIのために一部機能を移管することも検討が必要。
収益の確保・費用の削減による一般会計負担金の計画的な縮減	<ul style="list-style-type: none"> DPC制度導入後の診療実績に応じて、適宜、クリニカルパスを見直すなど、標準かつ効率的な医療提供 患者の状態にあわせたきめ細かいベッドコントロールによる、ICU等の効果的な運用 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ DPC導入は、綿密に計算して慎重に検討すべき。 ✓ 入院患者数や収支状況が悪化するのであれば、病棟削減や人員配置等の効率化を図るべき。

今後の方向性等について、地元市町村に説明を実施(10月1日～15日)

病院名	主な意見
江 差 病 院	<ul style="list-style-type: none"> ○ 看護師の確保は町も貸付制度等で協力していきたい。 ○ 地域連携推進法人としてもっとプラスの取組を。町立国保は当面病院のまま続けていく。 ○ 地域自体が高齢化しているので、町内や近くに通うことができる病院があることが重要。 ○ 道立や町内医療機関の看護師への修学資金貸付、奨学金返済援助制度があるので、活用していただきたい。道立は今の機能を維持していくということで承知。
羽 幌 病 院	<ul style="list-style-type: none"> ○ 加藤病院が廃院となり、羽幌病院だけがこの地域の頼みの綱であり引き続きお願いしたい。 ○ 役場職員も受診しており、羽幌病院は留萌圏域に必要不可欠と考えており感謝している。 ○ 羽幌病院は地域になくてもならない存在なので、現状維持で頑張っていたきたい。 ○ 羽幌病院、市立病院を含め、2次医療圏における効果的な地域医療提供体制の確保のため具体的な意見交換をしていきたい。
緑ヶ丘病院	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童思春期精神医療を含め、病院の体制・医療機能を継続していただきたい。 ○ 圏域の精神科救急医療の中核であり、なくてはならない病院。機能を継続していただきたい。
向陽ヶ丘病院	<ul style="list-style-type: none"> ○ 医療MaaSは今後拡大していきたいと考えているため、ぜひ積極的に活用していただきたい。 ○ 緑ヶ丘病院の待機期間が長いという話は聞こえているので、そちらもよろしくお願いしたい。 ○ 人材確保については、こちらも町の福祉施設の人の確保に苦しんでいるのでよくわかる。引き続き、よろしくお願いしたい。 ○ 圏域の住民が活用しているため、引き続きよろしくお願いしたい。 ○ 人材確保等大変だと思うがよろしくお願いしたい。

※コドモックルは、全道域を対象としているため未実施。